

北海道物流研究会発足の 背景と趣旨

2023年7月28日
北海道物流研究会

事務局 イオン北海道株式会社
物流改革マネージャー 石田 将

【アジェンダ】

- イオン北海道紹介
- 業態紹介
- 物流施設紹介
- 配送エリア
- 2024年問題の課題
- 物流協調領域対応に向けて
- 北海道物流研究会の発足
- 物流協調領域の検討
- 政府による物流革新に向けた政策パッケージとガイドラインの策定
- 改善取り組み事例の紹介
- 北海道の生活を支え続けるサプライチェーン最適化の推進

■イオン北海道紹介

経営
ビジョン

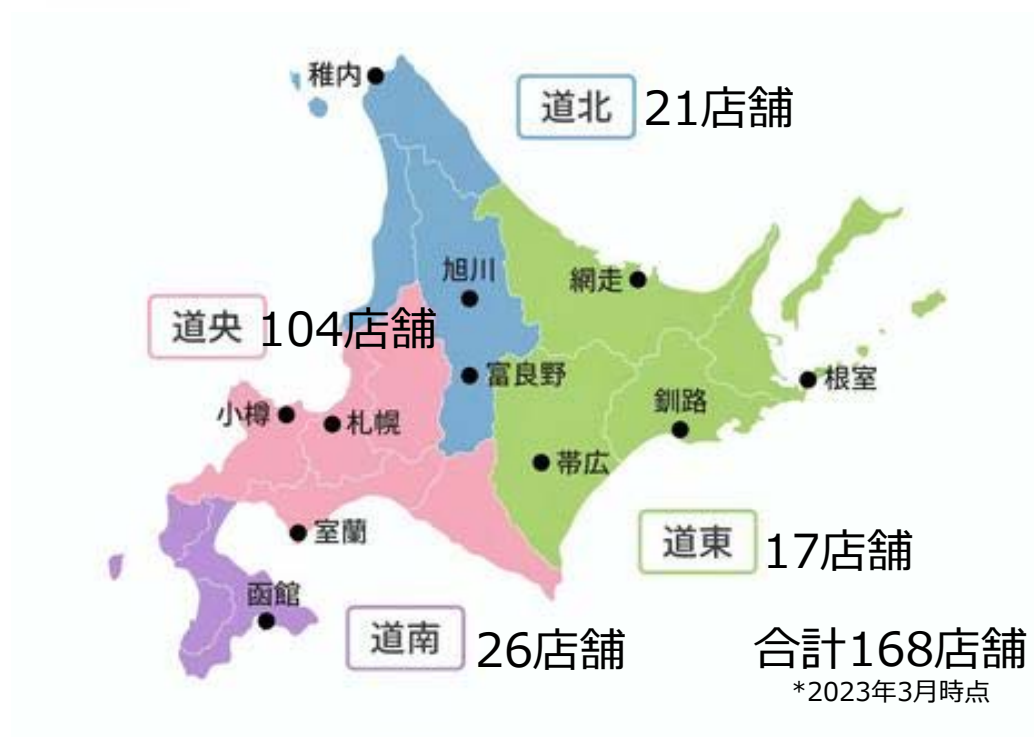
“北海道のヘルス&ウェルネスを支える企業”になる。

お客さまの「健康」で「楽しい」、
豊かな毎日をお手伝いします。

新たな地域共生の
カタチをつくります。

従業員が
最大の資産です。

透明で持続性と安定性の
ある経営を実践します。



- 売上高 3,172億円/年間
- 従業員数 約19,000人
- ※北海道の300人に1人

■ 業態紹介

総合スーパー (GMS)

「イオン」「イオンモール」

39店舗



スーパーマーケット (SM)

「マックスバリュ」

66店舗



サイクル専門店

「イオンバイク」

1店舗



ディスカウントストア (DS)

「ザ・ビッグ」

20店舗



小型スーパー

「まいばすけっと」

42店舗



■ 物流施設紹介

北海道RDC



北海道XD



石狩PC



センター名	温度帯	センター所有者 (家主)	業務委託先企業	3 PL企業
北海道RDC	常温	センコー(株)	イオングローバルSCM(株)	センコー(株)
北海道XD	低温 (5℃、15℃、0℃、-25℃)	エアウォーター物流(株)	イオングローバルSCM(株)	エアウォーター物流(株)
帯広DP	低温 (5℃、15℃)	よつ葉乳業(株)	イオングローバルSCM(株)	エアウォーター物流(株)
石狩PC	低温 (5℃、15℃、0℃、-25℃)	イオン北海道(株)	イオングローバルSCM(株)	エアウォーター物流(株)

センター名	所在地	出荷量
北海道RDC	北海道北広島市北の里3-27	90,000CS/日
北海道XD	北海道江別市工栄町19-8	68,500CS/日
帯広DP	北海道河東郡音更町新通20丁目3番地	—
石狩PC	石狩市新港南2丁目9番4	40,000CS/日

■ 配送エリア

【北海道全体店舗】

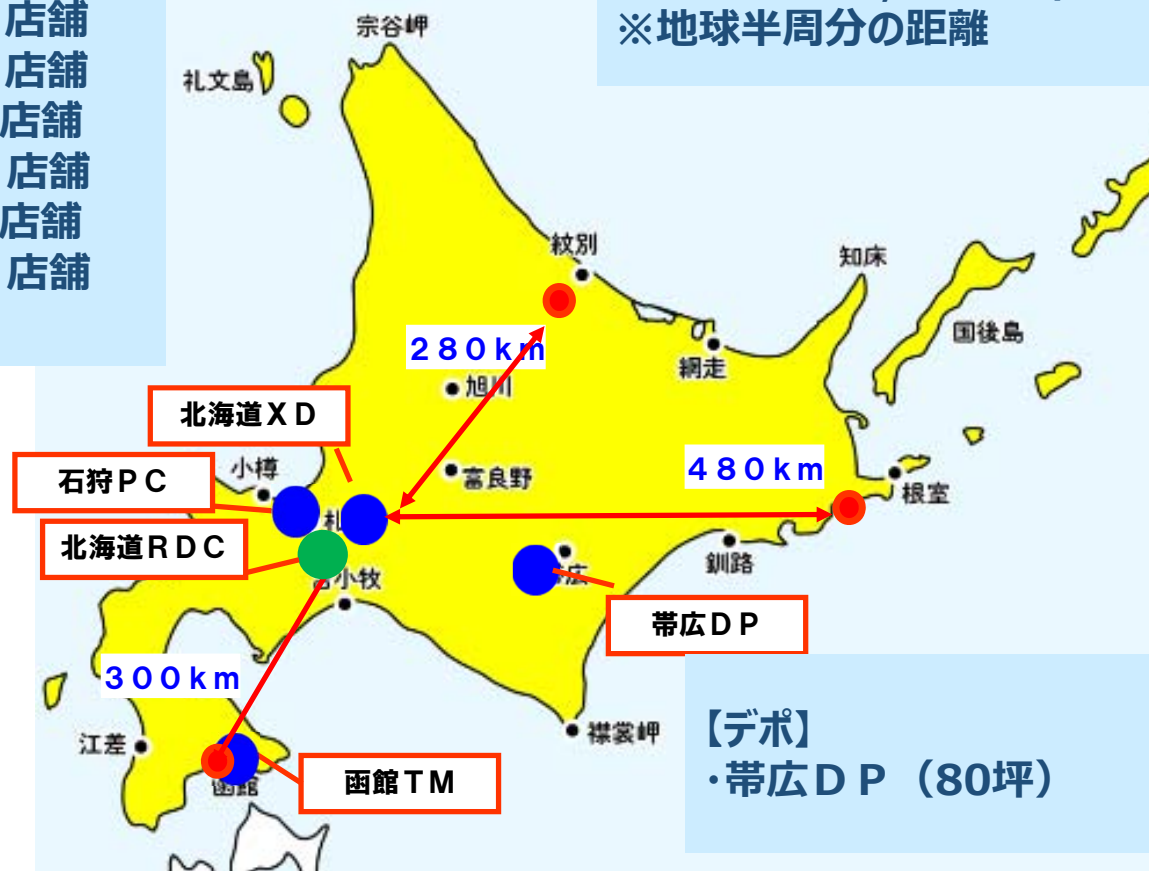
…イオン	39店舗
…マックスバリュ	66店舗
…ザ・ビック	20店舗
…まいばすけっと	42店舗
…イオンバイク	1店舗
計	168店舗

便数 : 436便/日
走行距離 : 21,800km/日
※地球半周分の距離

東は根室市常磐町
A根室店 (480 km)

北は紋別市花園町
A紋別店 (280 km)

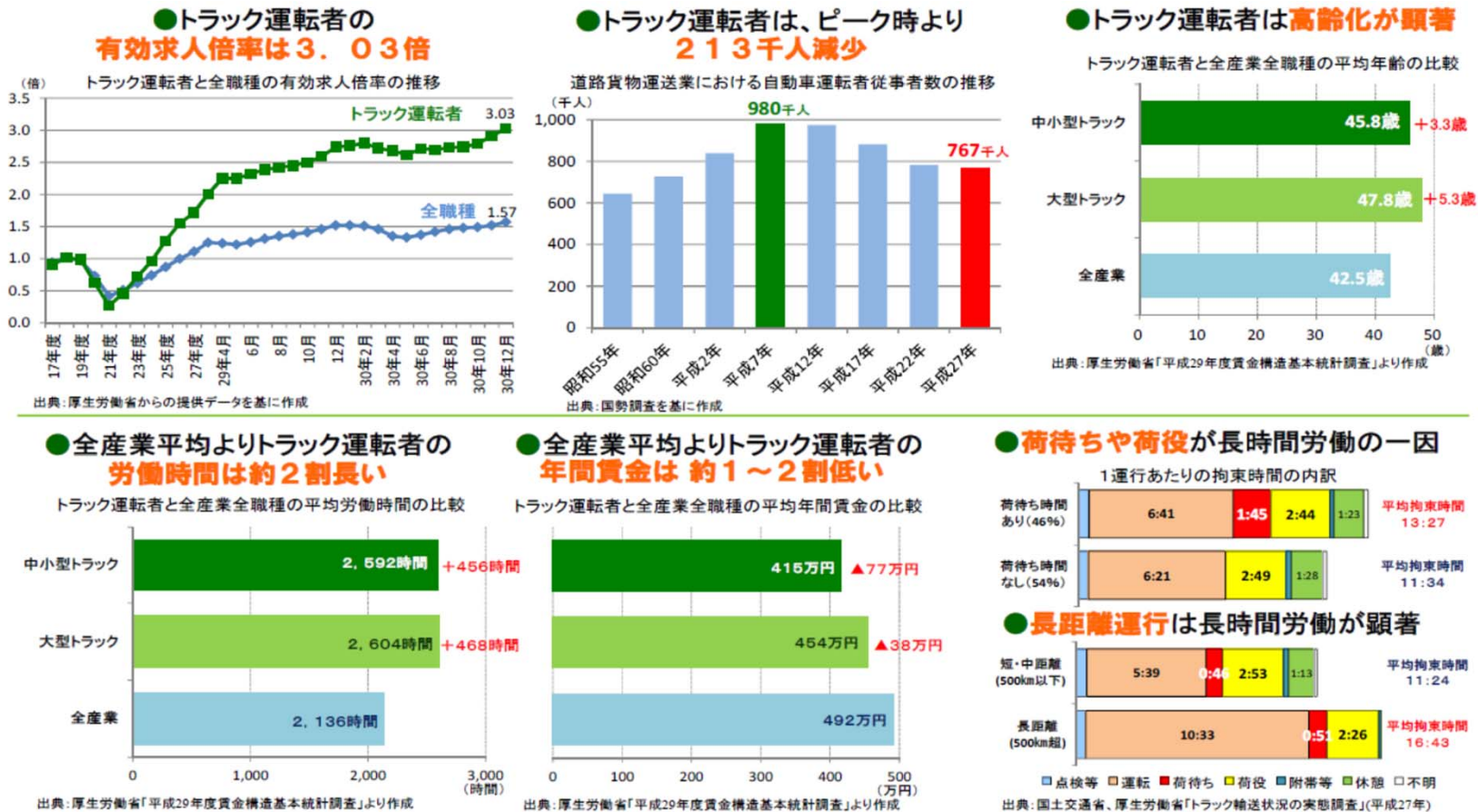
南は北斗市七重町
A上磯店 (300 km)



【デポ】
・帯広DP (80坪)

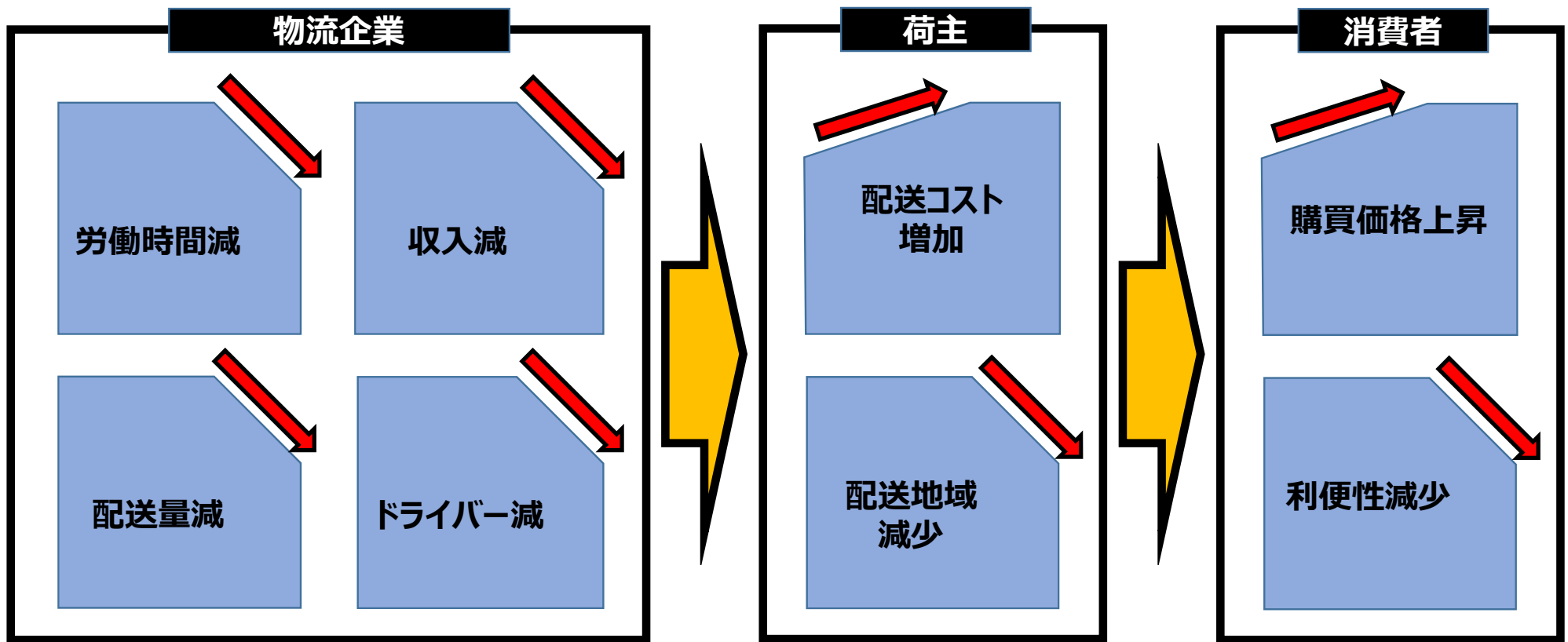
■ 物流業界の状況

物流業界は人手不足、高齢化、長時間労働、低賃金等あらゆる面で非常に厳しい状況となっており、従来通りの配送を行うのが困難な時代



■ 2024年問題の課題

さらに「2024年問題」にて加速する物流課題は荷主・消費者へも影響大
社会インフラを維持継続する為に、物流企業と連携して取り組む大きな課題



■ 物流協調領域対応に向けて

課題(業界の課題は、今や日本の社会的な問題)

- ・物流コストの上昇(人手不足・物価上昇etc)
- ・物流業界の待遇改善(ドライバー高年齢化)
- ・遠隔地の配送問題 (遠隔地への配送人員不足)
- ・札幌周辺への一極集中化 (地方配送の困難)
- ・道本物流の確保 (本州からの安定商品供給)

2024年問題対策

北海道の物流対策

物流業界の価値を上げる為にも……

物流業界地位向上

「若い優秀な人材が働きたい物流業界へ」

物流を競争領域ではなく、協調領域として「原資獲得」の為、企業間の協力が
必要、物流のムダ・ムリ・ムラを省いて、生産性の高い物流と一緒に作る

■北海道物流研究会の発足

AEON NEWS RELEASE

木を植えています
私たちはイオンです

2023年5月18日
イオン北海道株式会社

～北海道の物流課題の解決に向けて～ 北海道物流研究会を発足します

イオン北海道株式会社と以下の各社は、物流を取り巻く「2024年問題」や「脱炭素」等の課題を共有し対処することを目的として、その解決策を企業横断型で検討する北海道物流研究会を2023年5月18日（木）に発足することとなりましたのでお知らせいたします。

今後、発足の趣旨にご賛同いただいた企業さまと議論を行い、さらなる物流問題の課題解決と新たな北海道物流ネットワークの構築に向けた検討を行ってまいります。

1. 発足の背景と趣旨
物流業界は「2024年問題」や「脱炭素」、その他持続可能な物流を構築するために必要な変革に対して業界全体が課題感を持っております。この度ご賛同いただいた14社と研究会を発足し、物流分野で未来起こりうる課題解決に向けて企業横断型の仕組みを構築し、小売業の物流課題の解決に向けて動き出します。

2. 今後の方向性
物流業界、各社の物流課題の解決および新たな北海道物流ネットワークの構築に向け検討を行ってまいります。

【具体的には】

- ・共同物流の実施に向けた協議、実験取組を行ってまいります。
- ・実験後に順次実験会社数を増やし、本格稼働に繋げてまいります。
- ・最終的には更に北海道全域での展開へ繋げていきたいと考えております。

3. 北海道物流研究会ご賛同企業
株式会社西友、株式会社トライアルホールディングス、北雄ラッキー株式会社、イオン北海道株式会社

※2023年5月1日時点のご賛同企業は14社

※社名公表に承諾を頂いた小売企業（4社）のみ社名を敬称略で掲載しております。

今後、ご賛同企業さまの拡大と産官学の活動としての取組みも進めてまいります。

4. 第一回北海道物流研究会 開催について
開催日時 2023年5月18日（木）13:00～15:00
場 所 ロイトン札幌 2階エンプレスホール
（北海道札幌市中央区北1条西11丁目）

※撮影・取材に関しては別途同日16時より記者会見を予定しております。
内部の様子や参加者の撮影・取材はお断り申し上げます。

以 上



○記者会見にて
販売においてはライバルであるが、物流面では協力し合う仲間

○会開催風景
社名公表9社
正式賛同5社
計14社で発足
それ以外にも小売企業、行政、銀行、大学と23の企業、団体が参加
総勢59名にて開催



小売企業4社、物流企業5社の9社が社名公表同意し、正式参加5社の14社にて発足

小売業

- ・イオン北海道株式会社
- ・株式会社西友
- ・株式会社トライアルホールディングス
- ・北雄ラッキー株式会社

オブザーバーを含めると30の
企業、団体、行政が参加いただく

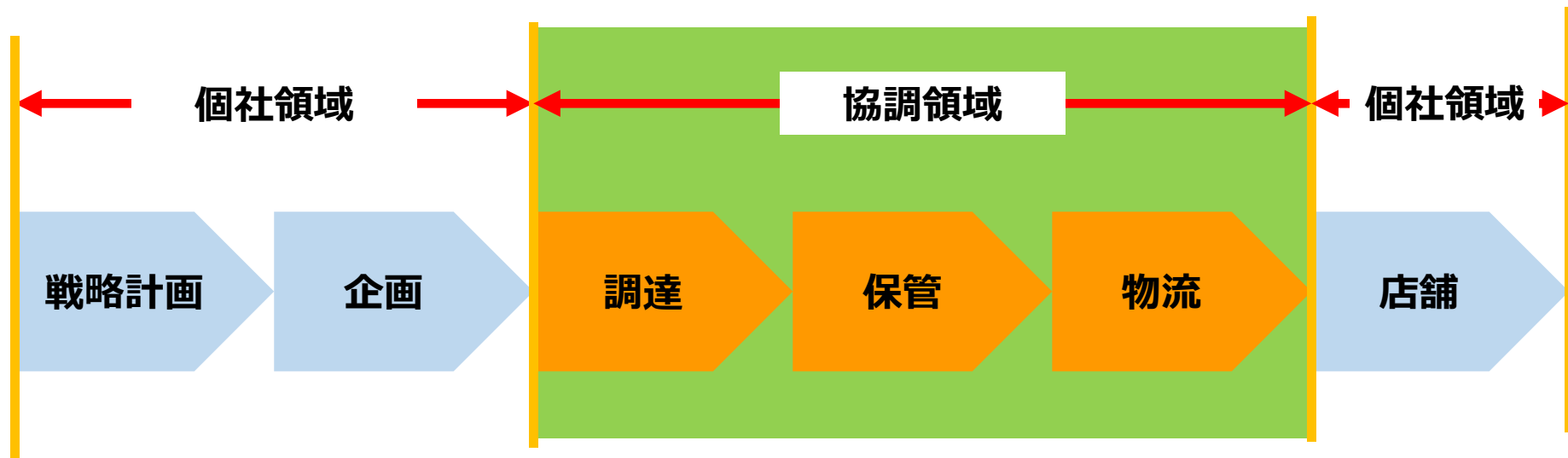
物流企業

- ・株式会社アイアイター
- ・イオングローバルSCM株式会社
- ・株式会社ティー・エルエス
- ・株式会社ムロオ
- ・明治ロジテック株式会社
- ・幸楽輸送株式会社＊
- ・近海郵船北海道株式会社＊

＊印は発足後、正式参加いただいた企業さま

■ 物流の協調領域の検討

荷主企業を含めたサプライチェーン全体での生産性向上、サプライチェーンの最適化を目指す。



■ 政府による物流革新に向けた政策パッケージとガイドラインの策定

1. 具体的な施策

(1) 商慣行の見直し

- ① 荷主・物流事業者間における物流負担の軽減（荷待ち、荷役時間の削減等）に向けた規制的措置等の導入^(※)
- ② 納品期限（3分の1ルール、短いリードタイム）、物流コスト込み取引価格等の見直し
- ③ 物流産業における多量下請構造の是正に向けた規制的措置等の導入^(※)
- ④ 荷主・元請の監視の強化、結果的かつフォー・及びそのための体制強化（トラックGメン（仮称））
- ⑤ 物流の担い手の賃金水準向上等に向けた適正賃金収受・価格転嫁円滑化等の取組み^(※)
- ⑥ トラックの「標準的な運賃」制度の拡充・徹底

(2) 物流の効率化

- ① 即効性のある設備投資の促進（バス予約システム、フォークリフト導入、自動化・機械化等）
- ② 「物流GX」の推進（鉄道・内航海運の輸送力増強等によるモーダルシフト、車両・船舶・物流施設・港湾等の脱炭素化等）
- ③ 「物流DX」の推進（自動運転、ドローン物流、自動配送ロボット、港湾AIターミナル、サイバポート、フィジカルインターネット等）
- ④ 「物流標準化」の推進（パレットやコンテナの規格統一化等）
- ⑤ 道路・港湾等の物流拠点（中継輸送含む）に係る機能強化・土地利用最適化や物流ネットワークの形成支援
- ⑥ 高速道路のトラック速度規制（80km/h）の引上げ
- ⑦ 労働生産性向上に向けた利用しやすい高速道路料金の実現
- ⑧ 特殊車両通行制度に関する見直し・利便性向上
- ⑨ ダブル連結トラックの導入促進
- ⑩ 貨物集配中の車両に係る駐車規制の見直し
- ⑪ 地域物流等における共同輸送の促進^(※)
- ⑫ 軽トラック事業の適正運営や輸送の安全確保に向けた荷主・元請事業者等を通じた取組強化^(※)
- ⑬ 女性や若者等の多様な人材の活用・育成

(3) 荷主・消費者の行動変容

- ① 荷主の経営者層の意識改革・行動変容を促す規制的措置等の導入^(※)
- ② 荷主・物流事業者の物流改善を評価・公表する仕組みの創設
- ③ 消費者の意識改革・行動変容を促す取組み
- ④ 再配達削減に向けた取組み（再配達率「半減」に向けた対策含む）
- ⑤ 物流に係る広報の推進

2. 施策の効果（2024年度分）

	（施策なし）	（施策あり）	（効果）
・ 荷待ち・荷役の削減	3時間	→ 2時間 × 達成率3割	： 4.5ポイント
・ 積載効率の向上	38%	→ 50% × 達成率2割	： 6.3ポイント
・ モーダルシフト	3.5億トン	→ 3.6億トン	： 0.5ポイント
・ 再配達削減	12%	→ 6%	： 3.0ポイント
			合計： 14.3ポイント

2030年度分についても、2023年内に中長期計画を策定

3. 当面の進め方

2024年初	・ 通常国会での法制化も含めた規制的措置の具体化
2023年末まで	・ 「トラック輸送に係る契約内容の見直しに向けた『標準運送約款』」「標準的な運賃」の改正等 ・ 再配達率「半減」に向けた対策 ・ 2024年度に向けた業界・分野別の自主行動計画の作成・公表 ・ 2030年度に向けた政府の中長期計画の策定・公表
速やかに実施	・ 2024年における規制的措置の具体化を前提としたガイドラインの作成・公表等
2024年初に政策パッケージ全体のフォローアップ	

物流事業だけではなく、
革新内容は荷主、消費者
の行動変容にも及ぶ

物流の適正化・生産性向上に向けた
荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン

1. 発荷主事業者・着荷主事業者に共通する取組事項

(1) 実施が必要な事項

- ・ 荷待ち時間・荷役作業等に係る時間の把握
- ・ 荷待ち・荷役作業等時間
- ・ 2時間以内ルール/1時間以内努力目標
- ・ 物流管理統括者の選定
- ・ 物流の改善提案と協力
- ・ 運送契約の書面化 等

(2) 実施することが推奨される事項

- ・ 予約受付システムの導入
- ・ パレット等の活用
- ・ 検品の効率化・検品水準の適正化
- ・ 物流システムや資機材（パレット等）の標準化
- ・ 共同輸送の推進等による積載率の向上
- ・ 荷役作業時の安全対策 等

2. 発荷主事業者としての取組事項

(1) 実施が必要な事項

- ・ 出荷に合わせた生産・荷造り等
- ・ 運送を考慮した出荷予定時刻の設定

(2) 実施することが推奨される事項

- ・ 出荷情報等の事前提供
- ・ 物流コストの可視化
- ・ 発送量の適正化 等

3. 着荷主事業者としての取組事項

(1) 実施が必要な事項

- ・ 納品リードタイムの確保

(2) 実施することが推奨される事項

- ・ 発注の適正化
- ・ 巡回集荷（ミルクラン方式） 等

4. 物流事業者の取組事項

(1) 実施が必要な事項

- 共通事項
・ 業務時間の把握・分析
・ 長時間労働の抑制
・ 運送契約の書面化 等
- 個別事項（運送モード等に応じた事項）
・ 荷待ち時間や荷役作業等の実態の把握
・ トラック運送業における多重下請構造の是正
・ 「標準的な運賃」の積極的な活用

(2) 実施することが推奨される事項

- 共通事項
・ 物流システムや資機材（パレット等）の標準化
・ 賃金水準向上
- 個別事項（運送モード等に応じた事項）
・ 倉庫内業務の効率化
・ モーダルシフト、モーダルコンビネーションの促進
・ 作業負担軽減等による労働環境の改善 等

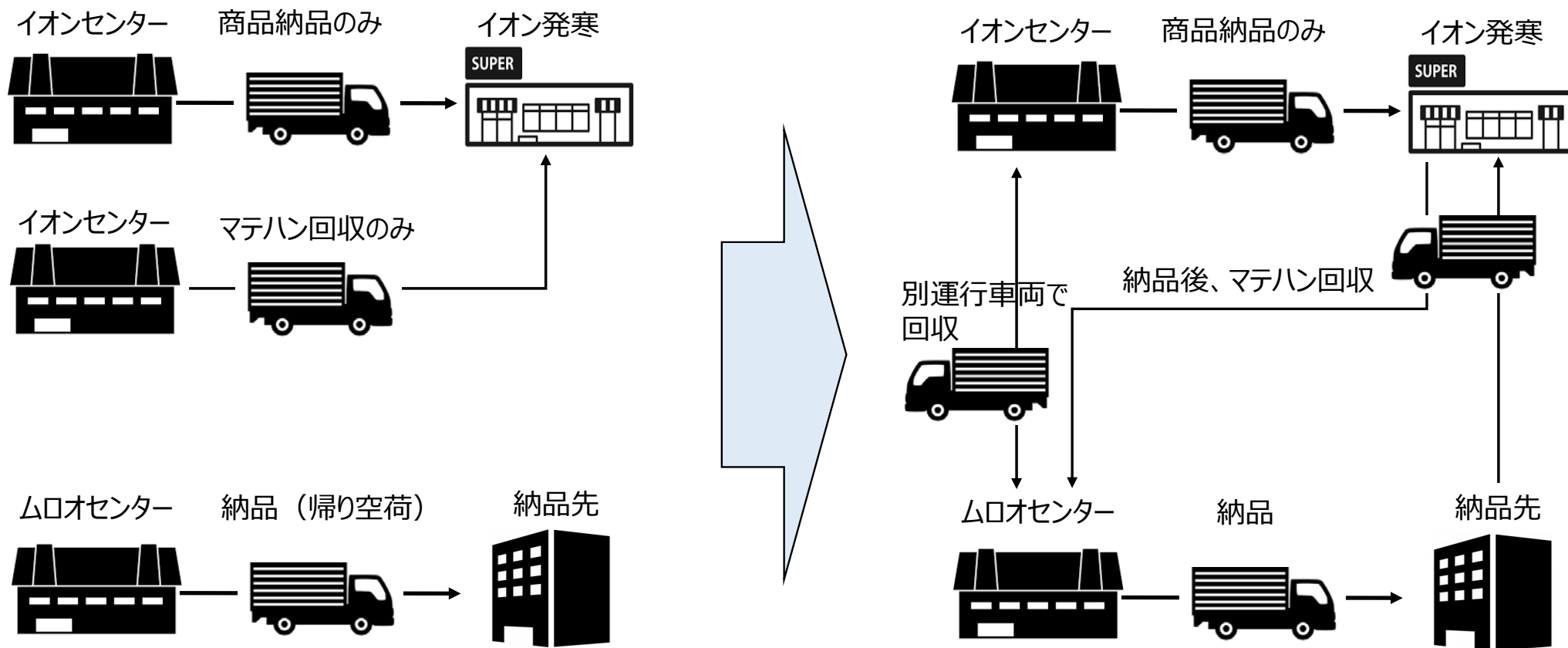
5. 業界特性に応じた独自の取組

業界特性に応じて、代替となる取組や合意した事項を設定して実施する。

■改善取り組み事例の紹介

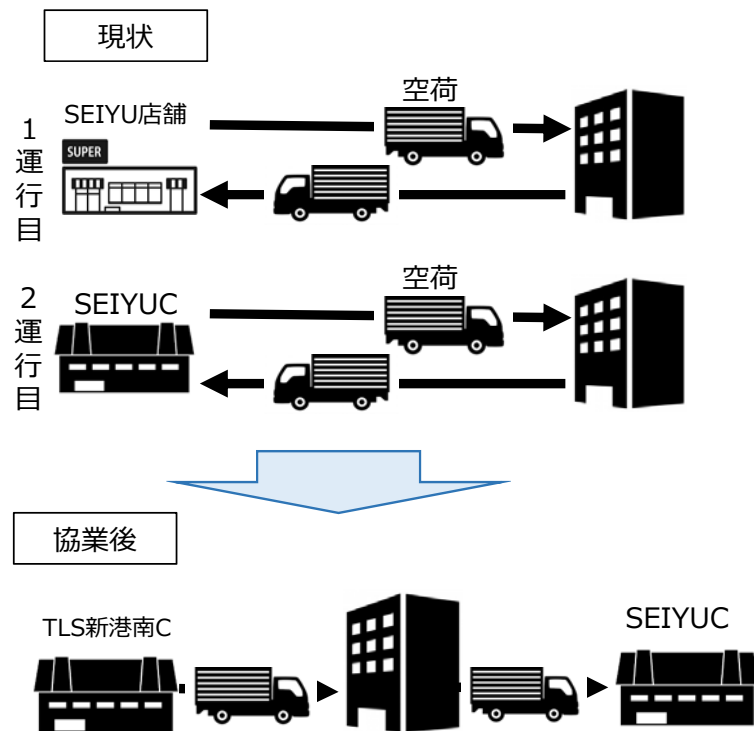
イオン北海道×ムロオ 運行車両削減対応（マテハン回収便の業務委託）

※8月初旬運用開始

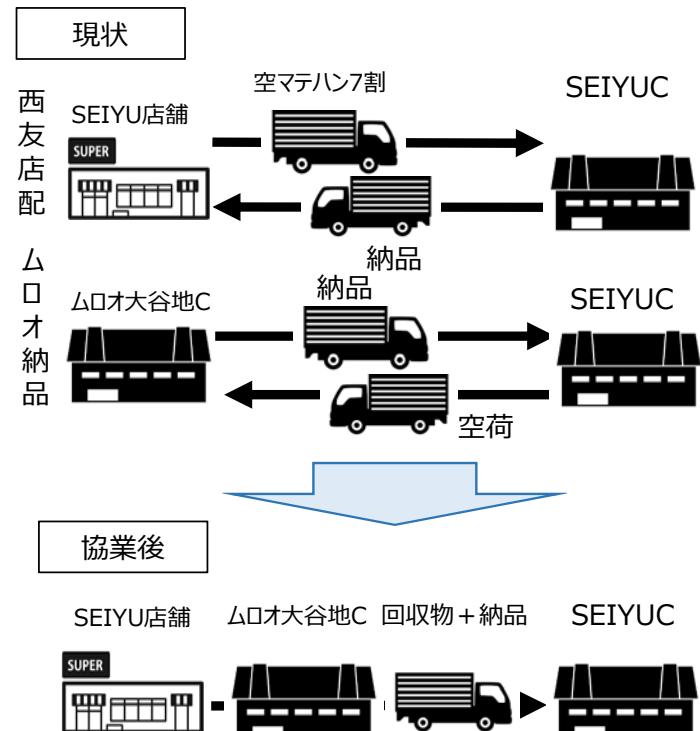


年間3,700kmの走行距離削減

【実施済】イオン北海道以外の企業さまの共同化



実車率170%改善！！

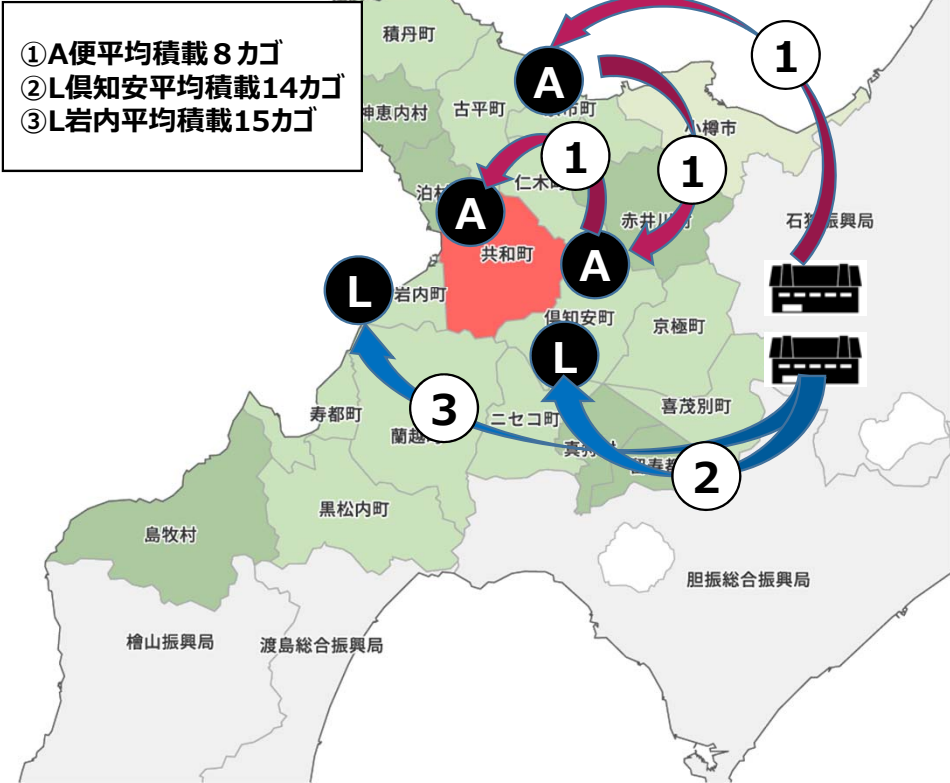


実車率120%改善！！

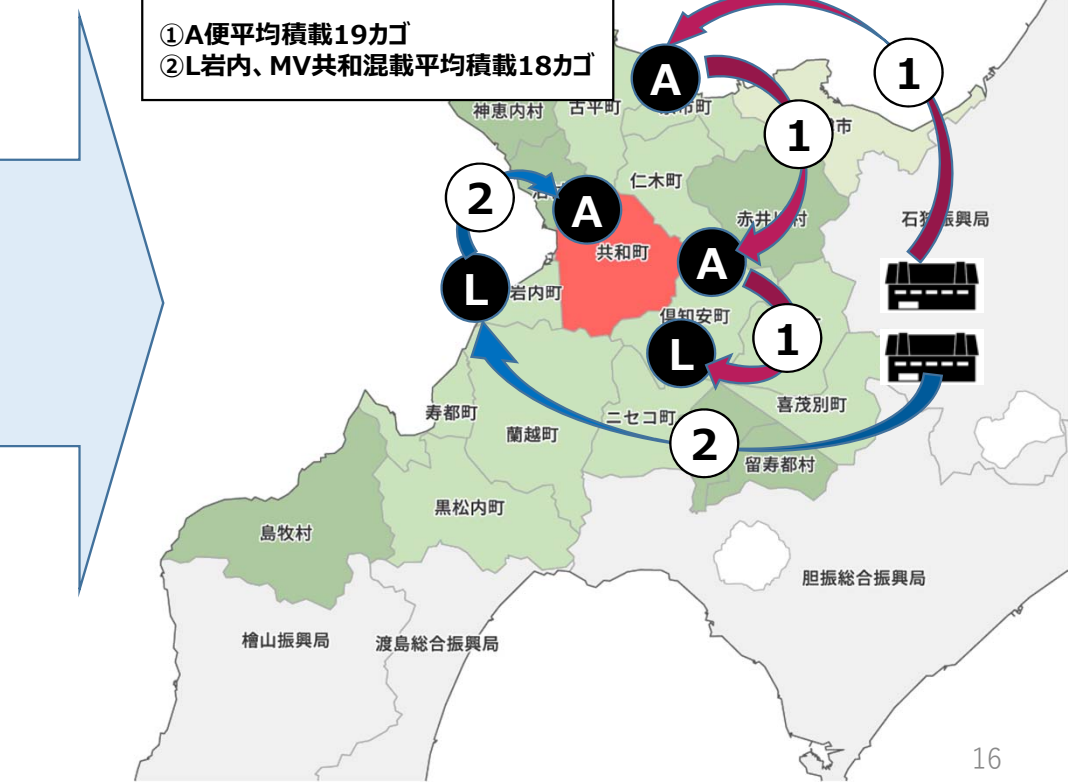
イオン北海道×北雄ラッキー 混載運行対応（1車両減車）～朝便～

※運用図はイメージです

- 後志方面に両社で3車両運行
- ①A余市、MV倶知安、MV共和1車両運行
 - ②L倶知安店1車両運行
 - ③L岩内店1車両運行



- 後志方面に両社で2車両運行（1車両減）
- ①A余市、MV倶知安、**L倶知安**、MV共和1車両運行
 - ②L岩内店、MV共和店1車両運行



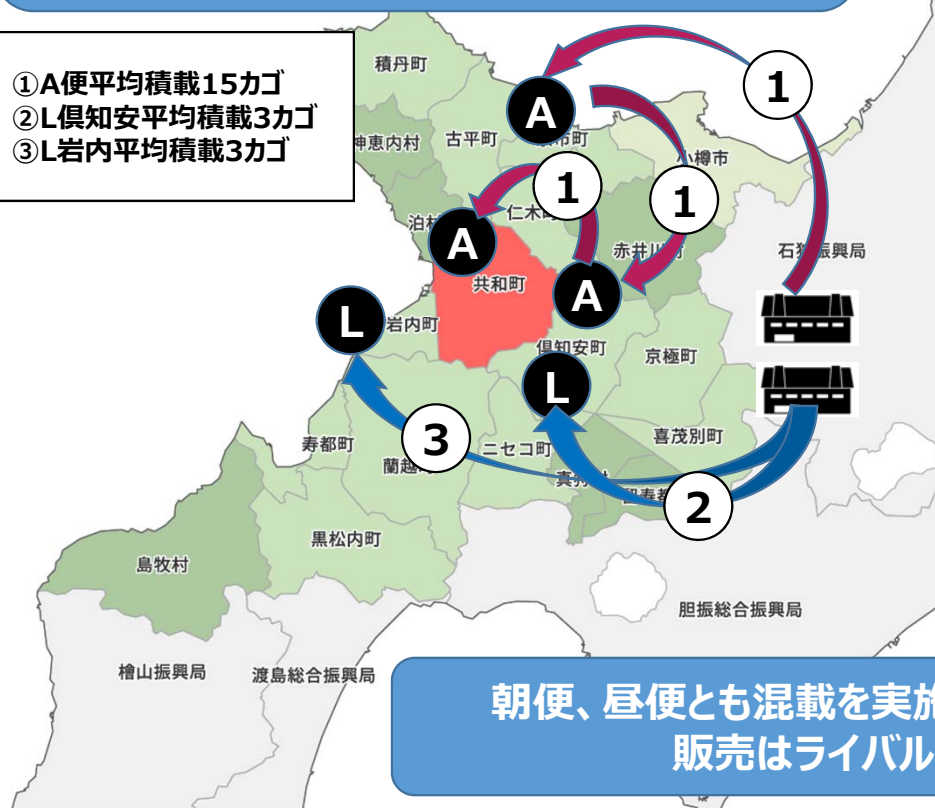
イオン北海道×北雄ラッキー 混載運行対応（1車両減車）～昼便～

※運用図はイメージです

後志方面に両社で3車両運行

- ①A余市、MV倶知安、MV共和1車両運行
- ②L倶知安店1車両運行
- ③L岩内店1車両運行

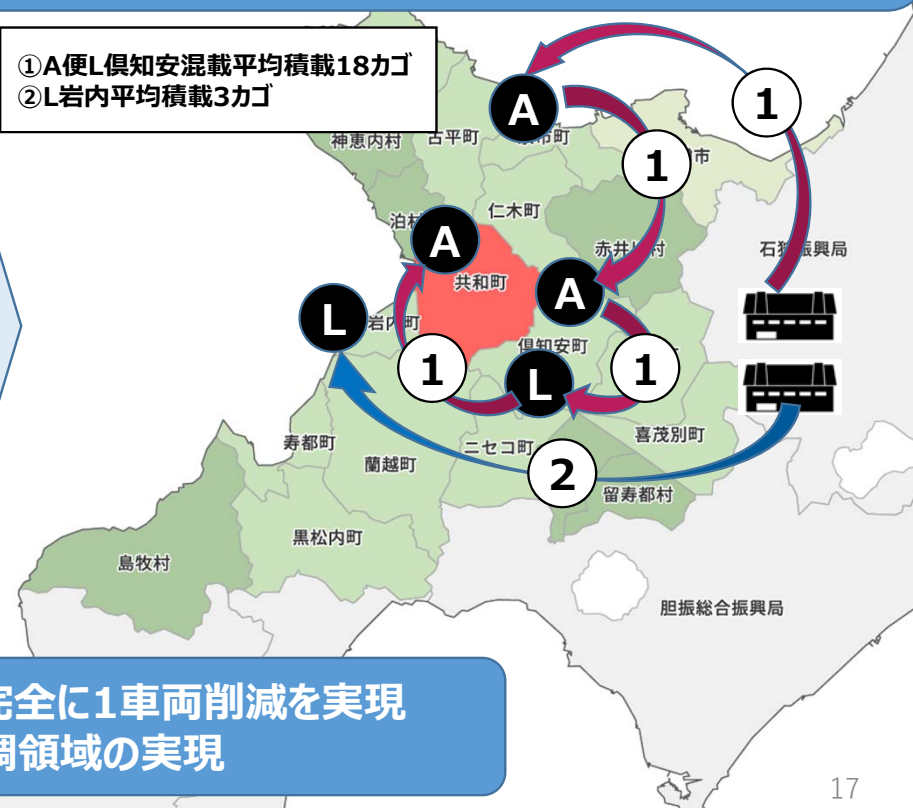
- ①A便平均積載15カゴ
- ②L倶知安平均積載3カゴ
- ③L岩内平均積載3カゴ



後志方面に両社で2車両運行（1車両減）

- ①A余市、MV倶知安、L倶知安、MV共和1車両運行
- ②L岩内店1車両運行

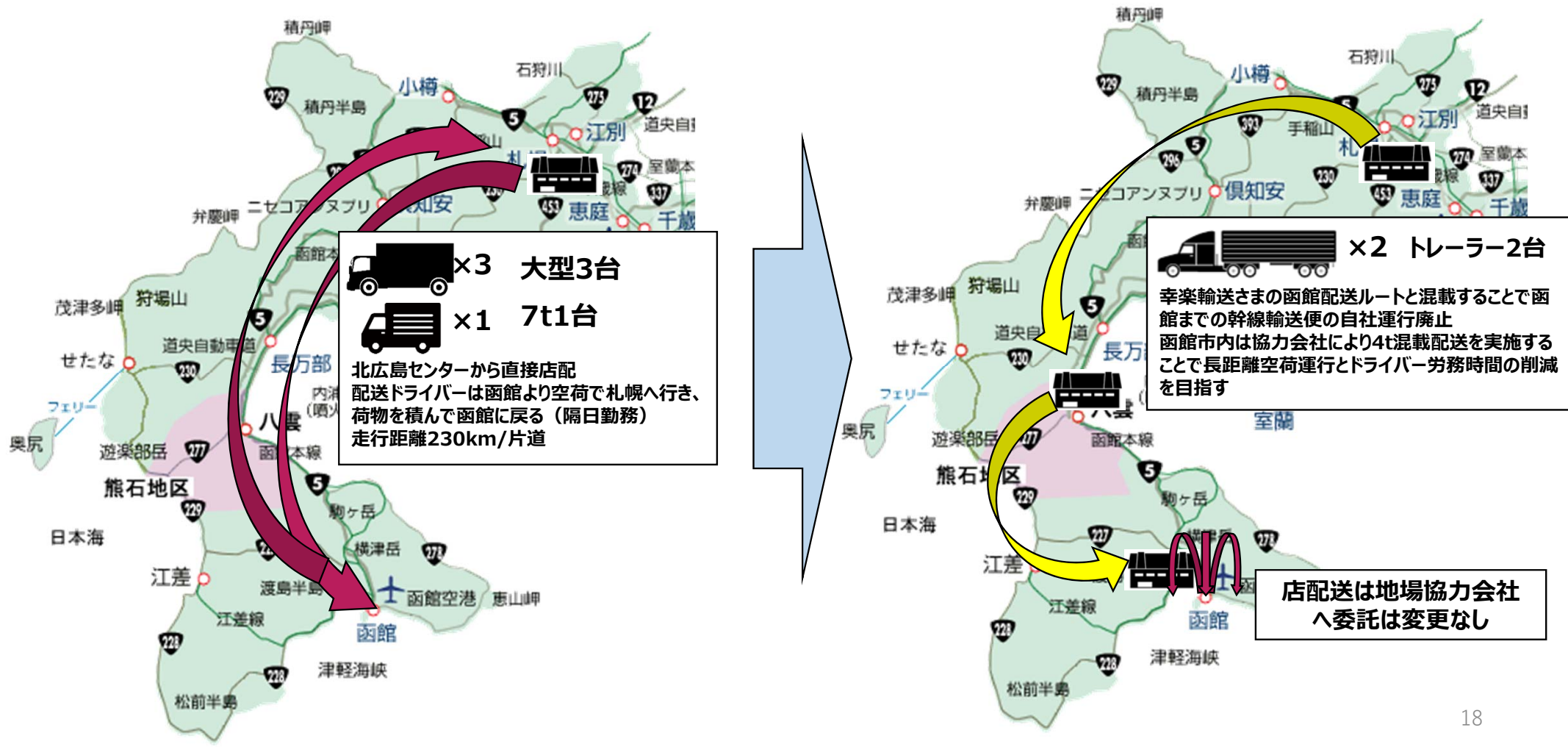
- ①A便L倶知安混載平均積載18カゴ
- ②L岩内平均積載3カゴ



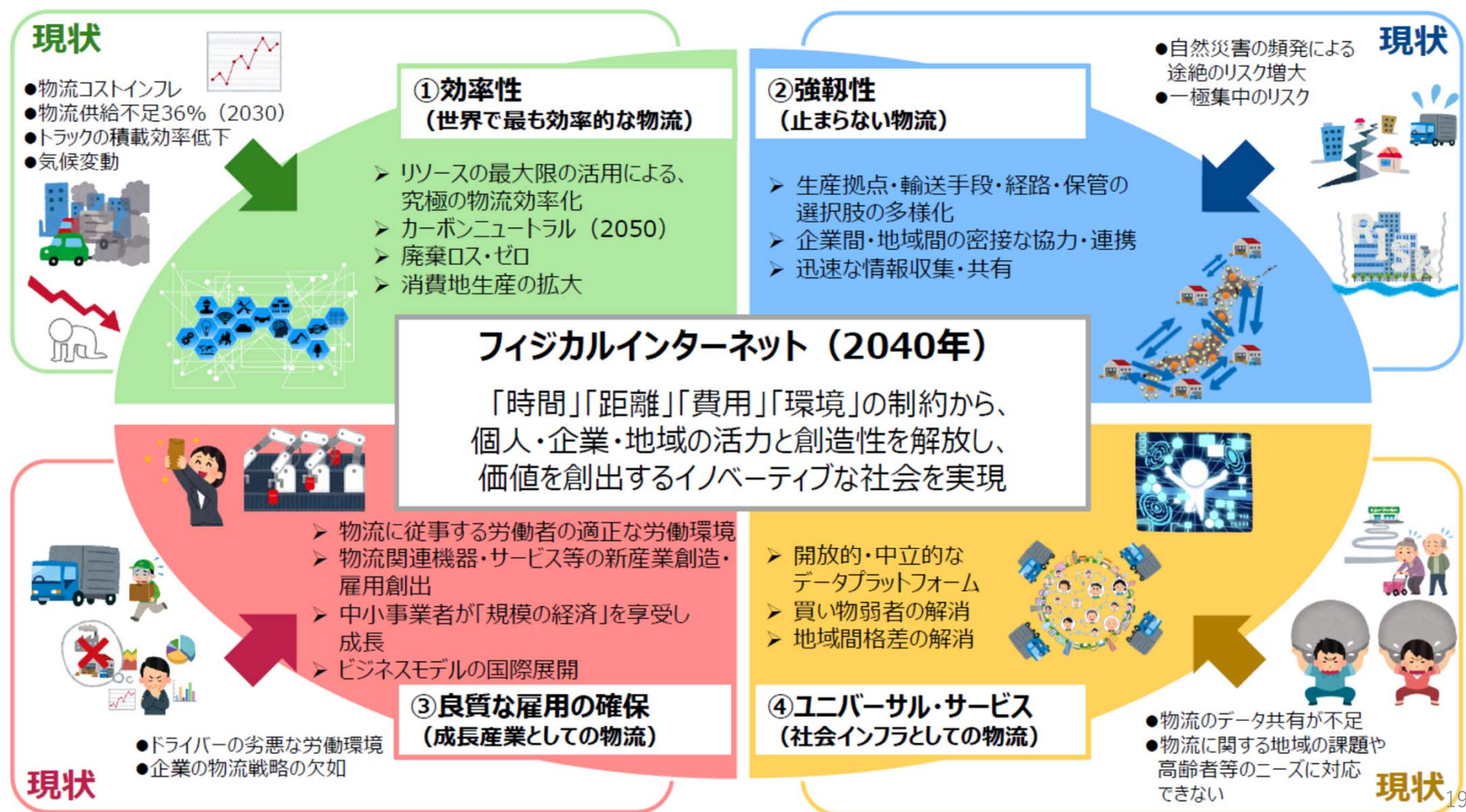
朝便、昼便とも混載を実施することで完全に1車両削減を実現
販売はライバル、物流は協調領域の実現

イオン北海道×幸楽輸送 函館幹線配送便の削減（中間拠点運用）

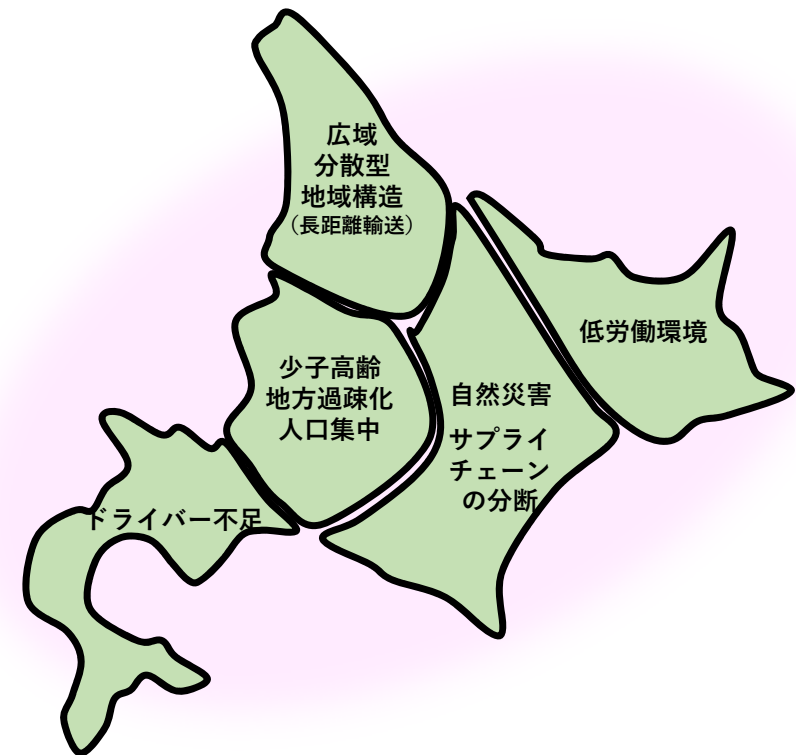
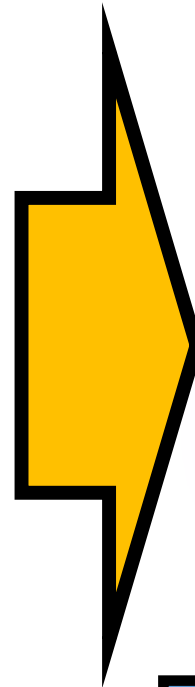
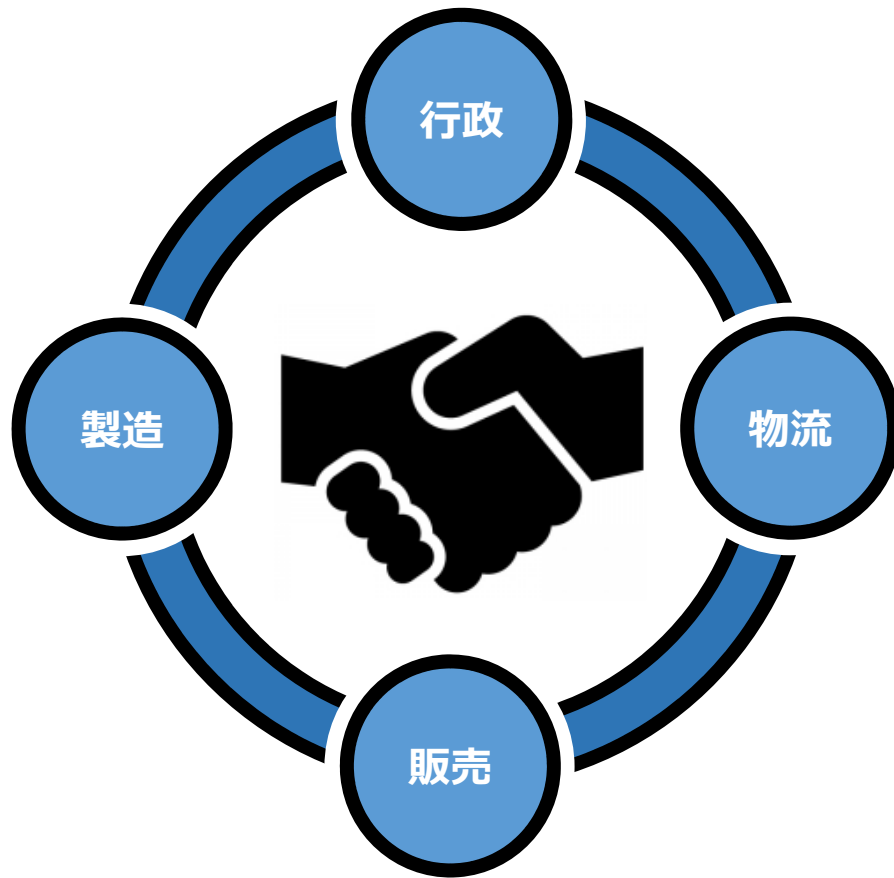
※運用図はイメージです



■ 北海道の生活を支え続けるサプライチェーン最適化の推進



販売（小売）、製造（卸・メーカー）（発着荷主）、物流、行政が連携を強化、共同してサプライチェーンの最適化、物流改革に取り組み、消費者の皆さまの生活を支え続ける



北海道の生活を支え続ける

■ 北海道物流研究会に関するお問い合わせ先

イオン北海道株式会社
商品本部 商品戦略部
物流改革マネージャー
石田 将（いしだ しょう）

メールアドレス ishida.sho@aeonpeopleI.biz